

学生が自ら問題を定義して、解決のための方策を考えてほしい。

— 三菱総合研究所と九州大学、どちらも「共創」がキーワードになっていますが、具体的には今後どのような取り組みをしていく予定ですか？

森崎 最近、当社が事業ミッションとして掲げているのが「未来共創」です。社会課題をビジネスで解決して未来につなげていく「未来共創イノベーションネットワーク」という新しい試みを通じ、「解くべき社会課題を開発により社会実装を実現する」ことを目指しています。具体的には、まず何をしなければいけないのかアジェンダを設定する。次に解決策を集める。そして解決策を活用しながら企業や大学、国や自治体と一緒に事業開発を具体化する。この大きな3つの流れで事業を進めています。九州大学ではこの4月に新しく「共創」をテーマにした学部がスタートすると伺いました。

小山内 はい。「共創学部」がスタートします。地球上には人類が抱える課題が無限にあります。例えば地球温暖化。気候変動なので自然科学がベースで考えられることもあるし、人類の活動が原因だと考えられるので、そのときは社会科学や人文科学を一緒に事業開発を具体化する。この大きな3つの流れで事業を進めています。九州大学ではこの4月に新しく「共創」をテーマにした学部がスタートすると伺いました。

森崎 社会が持つ課題をどう解決していくのか。これは国や企業だけが抱えるものではありません。もっと俯瞰的に考えるものであり、そのための教育が必要です。社会人になって初めて社会課題に立ち向かうのではなく、学生のときから取り組むことが重要だと考えています。社会課題は、いろいろな専門分野が結びついた複合的な問題であり、複雑化しています。一つの専門分野だけで解決することができません。あらゆる英知を集めて、問題の解決を図る「共創」が求められます。これは世界的に共通です。今回、学生のうちから学べる機関として貴学が初めて声を上げてくださいました。

小山内 全国の大学で「共創」や「共同」といったワードが入る名前の新しい学部がどんどん設立されています。例えば、「地域共創」や「地域共同」。このように大学の英知を地域の発展のために使おうと考えている

使って課題解決に向かわなければなりません。今まで大学が進めてきた人材育成の流れは、深く狭く専門的に学ぶものでした。確かに部分的には解決の方法を見いだせるかもしれません。温暖化全体を考えるとその中の一部分でしかない。全体を解決するためにどうすれば良いのか、広い視野から人文科学・社会科学・自然科学、あらゆる学問を包括的に考えられるようにならなければなりません。課題を実際に見いだせる学生を育成したいのです。

森崎 日本は課題先進国と言われる国ですからね。私たちも、今まで政策を提言するシンクタンクとして発展してきました。しかし、今では「実装する、実現する、実践する」アクトまでを視野に入れたシンク&アクションに変わってきました。しかし、我々だけできることは限られているので、社会のステークホルダーである皆さんと積極的に協業を図ります。従来親しくしていた大企業や大学、自治体はもちろん、今まで付き合いの少なかつたベンチャー企業にもネットワークに参加して頂いています。2018年1月時点での103の会員様がいます。まさに貴学部にも賛助会員様ということでお加入頂きました。今回の

大学が増えています。共創学部も似たような名前だと感じるかもしれません、実はそうではありません。人類が抱える課題は何なのか。学生が自ら問題を定義して、解決のためにどのような方策を取るのか考

えてほしい、と設立した学部です。スケール感が違いますよね。教育機関において必要で要求されるものの一つだと思います。

森崎 これはまさしく日本が先進国であるが故に、地域にとどまらず、全世界を視野に入れているのですね。例えば、日本で進んでいる高齢化の問題は、10年後20年後には中国で起きます。しかも日本のように豊かになる前にこの問題が起きます。いち早く認識して研究し、ソリューションを提示する。日本への貢献に見えますが、実は全世界への貢献にもつながっているのです。

— 今まで大学で一つの専門分野を学んでから社会のリーダーを育てるような流れでしたが。

森崎 個人的な意見になりますが、海外の若者は二つ以上の専門分野に詳しいのは当たり前で、一つを深く学べば良いという話ではなくなってきています。複数のこと挑戦するなら、その過程も変わります。最

貢献にもつながっています。

特別対談

産学で育む共創のこころ

いよいよ4月からスタートする「共創学部」。「共創学部」のテーマと 三菱総合研究所の“未来共創”的志には、共通の理念があります。

三菱総合研究所の森崎孝代表取締役社長と九州大学の 小山内康人副理事・共創学部長は、「共創学部」への期待や 育成したい人物像、新入学生への メッセージなどについて対談しました。

株式会社三菱総合研究所
代表取締役社長

森崎 孝

1978年に東京大学経済学部卒業後、三菱銀行(現三菱UFJ銀行)入行。2008年には、三菱東京UFJ銀行常務執行役員 兼 三菱UFJフィナンシャル・グループ常務執行役員。2012年には、三菱東京UFJ銀行専務取締役、2014年副頭取に。2016年10月に三菱総合研究所の副社長、12月に社長に就任。

国立大学法人九州大学
副理事・共創学部長

小山内 康人

北海道大学大学院修了後、岡山大学などの助教授を経て、2004年に九州大学教授に就任。地質学、岩石学を専門にしている。1987年に日本地質学会研究奨励賞、1992年に日本地質学会小藤賞を受賞、2014年~2016年 日本鉱物科学会会長。著書に『新版地学辞典』『岩石学概論』などがある。

